

1 事務事業の概要【Plan】

行政評価番号	132 020	事業種別	自治事務	委託の状況	-	指定管理開始	年度
政策体系	総合計画	頁	173	編	6	章	1
		節	1	節	1	節	1
	個別計画	実施の体系	3	体系の項目	1	広報・広聴	広報・広聴活動
事業期間	事業開始	昭和46、63 年度	終了予定	理由等			
事業目的	市政に対する市民の意見、要望、苦情などを、体系的な方法で聴くことで、市政に対する民意を把握し、市政に反映させる。						
対象	全市民						
手段	<ul style="list-style-type: none"> ・市長への手紙を市報に折り込み配布(年1回)。市役所市民ホールに「意見箱」を設置し、投函できるようにしている。寄せられた手紙は、市長が目を通すとともに担当課へ回付し、施策への反映を検討し、匿名のもの以外で回答可能なものは回答する。Eメールで意見が届いた場合も同様の扱いとしている。 ・市政モニターは市報記事で公募し、さらに各種団体の推薦により選出。平成23年度では8名を委嘱し、市政への意見、市報・CATV番組の感想、取材先の紹介などについて、モニター通信・モニター会議(年3回)等で意見、提言をいただいている。 						
目的	市民の意見を広く把握し担当課では課題として取り組む。						
事業を取り巻く状況	市長への手紙では、市政に対する市民の意見や要望は多様化してきており、その時々で課題となる内容は異なっている。						
過去の評価結果	区分	年度	方向性	次年度に向けての主な改善点等(改善事項がない場合はその理由)			
	市民評価	-	-	-			
	総合評価	19	継続	<ul style="list-style-type: none"> ●市政モニター: 広く市民の意見を聴く場として有効であるため継続する。公募以外の枠の設定など検討する。 ●市長への手紙: 市民の声なき声を吸い上げる貴重な機会であり、今後の行政サービスを進める上で有効な事業であるため継続する。 			
改善の状況	前回評価後の改善結果	<ul style="list-style-type: none"> ・市長への手紙の内容のいくつかを、市報こまがね記事に掲載している。 ・イントラネットで、手紙の傾向、手紙内容など職員への周知を行っている。 					
	現在進行中の改善内容(事務改善計画の概要等)	平成22年度から外国出身の市民に、市政モニターになってもらっている。					

4 事務事業の今後の方向性【Action】

区分(評価者)	方向性	次年度に向けての主な改善点等(改善事項がない場合はその理由)
市民評価	-	-
総合評価	継続 [コスト維持]	市長への手紙は、市へ直接意見を言うことのできる場であり、市政への参画を促す方法として有効であり継続の必要がある。市民の認知度を上げるための工夫が必要。市政モニターはさらに広く市民の意見を求められるよう検討する必要がある。

2 事務事業の執行状況【Do】

予算事業コード	20年度決算額	21年度決算額	22年度決算額	23年度予算額	24年度目標額	
A 事業費	225	234	208	229	228	
財源内訳	<ul style="list-style-type: none"> 国・県補助等 起債 受益者負担金(使用料等)… D その他 () 一般財源 					
B 人件費	人数	0.20 人	0.20 人	0.20 人	0.20 人	
	金額	1,427	1,409	1,368	1,368	
C 費用合計(A+B)		1,652	1,643	1,576	1,596	
主な費用内訳	市長への手紙印刷代	138	134	128	129	
	市政モニター慰労金	87	100	80	100	
費用増減の理由						
指標の数値化	項目名	20年度実績値	21年度実績値	22年度実績値	23年度計画値	24年度目標値
活動指標	市長への手紙配布数	13700 枚	13300 枚	12700 枚	12800 枚	12700 枚
	市政モニター提言、意見など数	51 件	33 件	49 件	50 件	50 件
成果指標	届いた手紙数	158 通	133 通	92 通	100 通	110 通
	手紙の内容件数	242 件	192 件	114 件	130 件	140 件
分析指標	手紙提出率 [届いた手紙数÷配布数×100]	1.15 %	1.00 %	0.72 %	0.78 %	0.87 %
	1つの意見に掛かる費用 [費用÷内容件数]	6,826 円	8,557 円	13,825 円	12,285 円	11,400 円
	《参考》受益者負担率 D/C	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

3 事務事業の評価・課題【Check】

【評価値】 A=高い B=比較的高い C=比較的低い D=低い

項目	評価のポイント	項目評価	判断理由	評価
必要性	① 市民のニーズは高いか	A	市長への手紙は、自由に市政に対して意見を述べる手段として、ニーズは高いと思われる。	A
	② 市が主体的に実施する必要があるか	A	市政モニターは市の広聴活動として、要綱で設置が定められている。	
	③ 市民・民間への役割分担がされているか	A	いただいた意見を、市政に反映させる目的から市が実施するのが適当。	
有効性	④ 事業目的に対して成果を上げているか	B	身近な行政に関心をもってもらう手段として、一定の成果が得られていると思われる。	B
	⑤ 活動の結果が成果に結びついているか	B	いただいた意見や質問によっては、即時に施設や業務改善が図られるものもあり、一定の成果に結びついている。	
	⑥ 市民の満足度は高いか	B	市政への意見等提言をすることができ、市政に参画する機会の一つとして、比較的満足度は高いと思われる。	
効率性	⑦ 活動は効率的な方法で実施されているか	B	市長への手紙用紙は、市報への折り込み、市内施設への設置、メール受付等により、効率的な方法で幅広く意見を募っている。	B
	⑧ 活動量・成果に対して投入コストは適切か	A	取り扱いの人件費は掛かるが、市長への手紙は印刷代、市政モニターは郵送料のみで、必要最小限の費用で実施している。	
	⑨ 連携・統合等により効率化が図られているか	B	内容によって、担当課と連携し回答原案を作成し、回答書を作成して送付している。	
改善の余地	有効性(④~⑥)を向上させる余地はあるか	有	内容によっては、直接の市長との面談や、担当課の訪問説明など、可能な限り直接的な対応を多くしていきたい。	有
	効率性(⑦~⑨)を向上させる余地はあるか	有	現在、市長への手紙は用紙配布による方法が主体だが、将来的にメールによる方法が増加すれば効率性が向上する。	
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・市長への手紙は、市政や将来のまちづくりへの意見などについて、意見を出してもらえる方法を工夫する必要がある。 ・市政モニターは、公募による応募者が少ない。幅広い分野で委嘱していく必要がある。 			

1 事務事業の概要【Plan】

行政評価番号	132 040	事業種別	自治事務	委託の状況	-	指定管理開始	年度
政策体系	総合計画	頁	173	編	6	章	1
		節	1	節	1	節	1
	個別計画	実施の体系	3	体系の項目	1	広報広聴活動	
根拠法令等	有線テレビジョン放送行政チャンネル設置要綱						
事業期間	事業開始	平成6 年度	終了予定	終了予定	理由等		
事業目的	市の施策や事業、お知らせなどを、わかりやすく市民に伝え、情報提供や啓発、各種取り組みへの市民の参加を促し、協働のまちづくりを進めていく。						
対象	CATVに加入している市民						
手段	週一本のペースで、年間53本の番組を制作し、1日8回放送している。番組の更新は毎週火曜日午後7時。企画・構成(一部撮影・編集)を市役所で行い、撮影・編集を株式会社エコーシティー・駒ヶ岳が担当している。行政番組放送時間外は、文字放送を放送。市からののお知らせや募集などの情報を簡潔な文面で放送している。作成は秘書広報課で行い、随時新しい内容に更新している。						
目的	視聴者に対し、情報を共有し、事業に参加してもらい、協働のまちづくりを推進する。						
事業を取り巻く状況	平成23年4月現在、約75パーセントの世帯が視聴可能。デジタル化工事は終了し、対応済みである。平成24年4月からエコーシティー・駒ヶ岳がハイビジョン化となるため、行政番組もハイビジョン化に向けて検討中。						
過去の評価結果	区分	年度	方向性	次年度に向けての主な改善点等(改善事項がない場合はその理由)			
	市民評価	20	手段改善	行政番組は、見なくても生活できる。見るメリット(お得感)を考える等必要である。市民が出る番組や、市民が作ったものを取り込む等で見てもらう工夫が必要である。文字放送は、必要な部分を見たい場合の対応(目次をつける等)や、聞くこと(視覚障がい者のため)ができるようにするなど検討していく必要がある。			
	総合評価	20	手段改善	●広報広聴事務 CATV1ch:文字離れが進む現代社会にあって、CATVのネットワークを活用したTV番組による情報配信は、情報の共有を前提とした協働のまちづくりの観点からも欠かせないものとなっている。今後、市民が作ったものを取り込む等で見てもらう工夫を行いながら、インターネットを通じた番組配信も視野に入れ、(株)エコーシティー・駒ヶ岳とも調整を行っていく。			
改善の状況	前回評価後の改善結果	番組は、市民へのインタビューなどの場面をより多くし、市民に登場いただいて、その活動の内容を伝える番組制作を行っている。新たに、市民を案内役とした番組を作成し、駒ヶ根市民も知らない新たな魅力を発信している。文字放送は、目次を付けより見やすくなった。また、新しい情報だとすぐ分かるように、「新着情報」という文字を加えた。					
	現在進行中の改善内容(事務改善計画の概要等)	インターネットによる動画配信は、新たな機材導入が必要であり、エコーシティー・駒ヶ岳とともに検討していく。					

4 事務事業の今後の方向性【Action】

区分(評価者)	方向性	次年度に向けての主な改善点等(改善事項がない場合はその理由)
市民評価	継続 [コスト維持]	視聴率は評価の重要な指標であることから、アンケート調査等何らかの方法により実態を把握する必要がある。行政のお知らせだけでなく、市民の活動をより多く紹介する等、更に番組内容の工夫をされたい。[附帯意見:より市民に親しみやすくするため、行政チャンネルとCEK自主放送の一本化等の検討も必要。CEK自主放送の番組中に、テロップで文字情報を流す方法も検討されたい。]
総合評価	継続 [コスト維持]	視覚的に市からの情報を得ることのできる媒体であり、継続の必要がある。アンケートなどで視聴の実態を把握し、ニーズに合った番組制作や市民の活動を紹介するような番組を制作する等の工夫が必要。

2 事務事業の執行状況【Do】

予算事業コード	1402	20年度決算額	21年度決算額	22年度決算額	23年度予算額	24年度目標額
A 事業費		86	85	93	93	88
財源内訳	国・県補助等					
	起債					
	受益者負担金(使用料等)…D					
	その他()					
	一般財源	86	85	93	93	88
B 人件費	人数	1.00 人	1.00 人	1.00 人	1.00 人	1.00 人
	金額	7,139	7,049	6,844	6,842	6,842
C 費用合計(A+B)		7,225	7,134	6,937	6,935	6,930
主な費用内訳	番組制作消耗品	33	32	40	40	36
費用増減の理由						
指標の数値化	項目名	20年度実績値	21年度実績値	22年度実績値	23年度計画値	24年度目標値
	活動指標	放送番組数	53 本	53 本	53 本	53 本
		一週間放送回数	56 回	56 回	56 回	56 回
		年間放送回数	424 回	424 回	424 回	424 回
	成果指標	①CATV加入世帯数	7087 世帯	9080 世帯	9054 世帯	9054 世帯
		(駒ヶ根市世帯数)	12574 世帯	12375 世帯	12127 世帯	12116 世帯
	分析指標	番組1回放送あたりの経費 [費用÷放送番組数÷一週間放送回数]	2,434 円	2,404 円	2,337 円	2,337 円
	加入1世帯あたりの経費 [費用÷CATV加入世帯数]	1,019 円	786 円	766 円	766 円	
	加入率 [CATV加入世帯数÷駒ヶ根市世帯数]	56.36 %	73.37 %	74.66 %	74.72 %	
	者負担率 D/C	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	

3 事務事業の評価・課題【Check】

項目	評価のポイント	項目評価	判断理由	評価
必要性	①市民のニーズは高いか	B	活字離れが進む中、7割を超える世帯が映像によって市の情報を知ることができるため、ニーズは高いと思われる。	A
	②市が主体的に実施する必要があるか	A	市政情報などを含む市の情報を、タイムリーに発信する観点から必要。	
	③市民・民間への役割分担がされているか	A	撮影・編集を株式会社エコーシティー・駒ヶ岳が担当している。	
有効性	④事業目的に対して成果を上げているか	B	視聴率は不明であるが、市民からの反応は増えている。市民が出演した番組は、特に反応がある。	B
	⑤活動の結果が成果に結びついているか	B	市政モニター通信や市民の皆さんの声などから、番組への評価が上がっている。	
	⑥市民の満足度は高いか	B	1番組1日8回1週間放送しており、番組を好きな時に視聴できる。文字放送ではいつでも行事予定の内容を知ることができる。	
効率性	⑦活動は効率的な方法で実施されているか	A	市単独での番組制作では、技術面、設備面などで多額の費用が掛かるところ、エコーシティー・駒ヶ岳との共同制作は効率的。	A
	⑧活動量・成果に対して投入コストは適切か	A	職員1人が専任で担当し、エコーシティー・駒ヶ岳職員とともに番組制作を行っており、適切なコストと考える。	
	⑨連携・統合等により効率化が図られているか	A	エコーシティー・駒ヶ岳の番組と連携して、市の情報を伝えている。	
改善の余地	有効性(④~⑥)を向上させる余地はあるか	有	市民が出演した番組は反応があるので、市民が出演する番組を増やすことで、有効性が高まる余地がある。	有
	効率性(⑦~⑨)を向上させる余地はあるか	有	エコーシティー・駒ヶ岳との作業分担は、現状では最善の方法をとっているが、日程等の調整により効率性改善の余地がある。	
課題	さまざまなメディアがある中で、いかにして番組を見てもらうかが課題			